



地域医会だより

県央皮膚科医の会

平成23年の活動報告は、残念ながらありません。予定では、5月に講演会を開催することが企画されてきました。しかし、東日本大震災発生により中止せざるを得なくなり時をずらして秋以降に、と図りましたが依頼講師のスケジュール・共催会社など諸々の事情が重なり開催を断念致しました。平成24年度は、2年ぶりに秋季に開催する手はずを整えているといった状況です。綾瀬市・大和市・座間市・そして海老名市4市の皮膚科医の先生方、ならびにその近隣の先生方、奮ってご参加いただけますようお願いいたします。

(文責：米元康蔵)



地域医会だより

横浜市皮膚科医会

平成23年度は1,000年に一度という大震災と、それに伴う様々な障害に日本中が心を痛めた年となりました。横浜市皮膚科医会も11月、幹事長として長期間にわたり医会を支えて来られた内山光明先生のご逝去という大きな喪失がありました。内山先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

大震災翌月、4月2日に行われた第128回例会では、まるで大災害を予測したかのように国立病院機構災害医療センター・災害対応システム研究室長の堀内善仁先生の講演が設定されており、交通事情他が不自由な時期ではありましたが、「『災害医療』の現状と『皮膚科医』の役割」というタイムリーな講演が行われました。

また、3月末で横浜市立大皮膚科教授職をご退任なさった池澤善郎名誉教授は大震災の影響ということで祝賀会を中止なさいましたが、10月20日の第130回例会において「池澤善郎名誉教授記念講演会」として「アレルギー性皮膚疾患の病態と治療」という演題で横浜市立大学皮膚科学教室の歴史と重症薬疹とアトピー性皮膚炎について熱くお話しいただきました。

池澤善郎名誉教授の後任には、相原道子先生が横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学教授として就任なさり、11月2日の横浜市皮膚科医会学術講演会においてご講演頂きました。

また、12月3日の第19回横浜臨床医学学術集談会でご講演いただいた昭和大学藤が丘病院皮膚科の末木博彦先生は4月1日より昭和大学医学部皮膚科教授へのご就任が決まりました。お二人の先生には、今後も横浜市皮膚科医会にご尽力いただくようお願い申し上げますとともに、さらなるご活躍を大いに期待しております。

さらに5月10日の横浜市医師会主催の「医学研修の日」を担当なさった袋秀平先生が平成23年度の横浜市学術功労者の表彰を受賞なさいました。

以下 平成23年度の事業内容を列記します。

1 例会

- ・第128回横浜市皮膚科医会例会・総会 4月2日

関内新井ホール 出席者45名

企画1 「ちょっと耳寄りな日常診療のコツ」

巨大コンジローマにモーズペーストが著効した例 福田香織

企画2 「皮膚科ヒヤリ・ハット事例集、トラブルを未然に防ぐために」

リリカについて 杉田泰之

特別講演 座長 高橋泰英

「災害医療」の現状と「皮膚科医」の役割—亜急性期医療（国際派遣）の体験を含めて

国立病院機構災害医療センター・災害対応システム研究室長 堀内善仁先生

生涯講座カリキュラムコード 16、19、44、57

- ・第129回横浜市皮膚科医会例会、第136回神奈川県皮膚科医会例会 7月3日

関内新井ホール 出席者175名

担当幹事 けいゆう病院皮膚科部長 河原由恵

テーマ 妊娠と皮膚

ミニレクチャー

演題 食物アレルギーとNSAIDs 座長 高橋さなみ

演者 横浜市立大学附属市民総合医療センター皮膚科講師 松倉節子

講演1 演題 妊娠と皮膚疾患 座長 河原由恵

演者 慶應義塾大学医学部皮膚科専任講師 谷川瑛子先生

講演2 演題 妊娠・産褥期（授乳期）の薬剤使用について 座長 大沼すみ

演者 虎の門病院産婦人科・健康管理センター医長 横尾郁子先生

生涯講座カリキュラムコード 3、58、9、71、72

- ・第130回横浜市皮膚科医会例会 10月20日

横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 出席者81名

池澤善郎名誉教授記念講演会 座長 毛利 忍

演題 アレルギー性皮膚疾患の病態と治療—当教室の研究紹介を中心に、最終講義を基調に—

演者 横浜市立大学名誉教授 池澤善郎先生

生涯講座カリキュラムコード 1、8、14、73

2 例会以外の会

- ・横浜市皮膚科医会学術講演会 6月23日 崎陽軒 出席者65名

一般演題 コムギ含有石けんによる即時型アレルギー～日臨皮の集計と厚労省の対応～

演者 浅井皮膚科クリニック 浅井俊弥

特別講演 演題 疣贅治療の工夫 座長 川口博史

演者 慈恵会医科大学皮膚科学講座非常勤講師、北里大学客員教授 江川清文先生

生涯講座カリキュラムコード 5、6

- ・第4回横浜皮膚病免疫研究会 6月30日 パンパシフィック横浜ベイホテル東急 出席者65名

一般演題 アトピー性皮膚炎治療に関するアンケート結果

演者 浅井皮膚科クリニック 浅井俊弥

特別講演 座長 川口博史

演題 アトピー性皮膚炎のネオオーラル治療

演者 N T T 東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之先生

生涯講座カリキュラムコード 2、15

- ・横浜市皮膚科医会学術講演会 11月2日 崎陽軒 出席者55名
演題 アトピー性皮膚炎と痒みのメカニズム 座長 毛利 忍
演者 横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学教授 相原道子先生

生涯講座カリキュラムコード 5、82

- ・第3回横浜市皮膚科医会市民講演会 3月11日 情文ホール
演題1 再確認：救急時における皮膚科疾患対応手順ABC
演者 横浜市立市民病院皮膚科部長 毛利 忍
演題2 メラノーマの診断ABC～ほくろ？それともがん？～
演者 横浜市立みなと赤十字病院皮膚科部長 並木 剛

横浜市医師会の学術活動

- ・みんなの健康 メディカルチェック tvkテレビ
4月22日 皮膚科レーザー治療（1）（2）
国際親善総合病院皮膚科部長 山田裕道
- ・みんなの健康 No.223 5・6月号 こんな時どうする
題目 とびひ
社会保険横浜市中心病院皮膚科 羽尾貴子
- ・横浜市医師会「医学研修の日」5月10日 横浜市健康福祉総合センター
演題 内科にもわかる褥瘡の管理
演者 ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平
- ・第19回横浜臨床医学学術集談会 12月3日 ホテルキャメロットジャパン
演題 糖尿病患者にみられる皮膚病変 座長 浅井俊弥
演者 昭和大学藤が丘病院皮膚科教授 末木博彦先生

平成23年度の出来事

- 7月1日 相原道子先生横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学教授就任
- 11月5日 内山光明横浜市皮膚科医会元幹事長ご逝去
- 12月2日 池澤善郎名誉教授就任祝賀会 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
- 2月13日 袋 秀平先生 横浜市医師会学術功労者授与式 横浜ベイシェラトン&タワーズ
- 2月23日 相原道子教授就任記念祝賀会 ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

常任幹事会、企画委員会、幹事会

- 4月1日 監査 幹事会・総会 関内新井ホール
- 4月6日 企画委員会 横浜ベイシェラトン&タワーズ
- 9月14日 常任幹事会・企画委員会 横浜ベイシェラトン&タワーズ
- 2月15日 常任幹事会・企画委員会 ホテルニューグランド

(文責：渡辺知雄)



地域医会だより

鎌倉市皮膚科医会

平成23年度の活動はありません。

(文責：原 尚道)



地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

平成23年3月16日（水） 19：30～

ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南迎賓館 6階「コーラル」

講師：高須 博先生（北里大学医学部皮膚科学講師）

演題：「皮膚悪性腫瘍 診断から治療の実際」

（当初上記で予定していましたが、3月11日東日本大震災のため7月まで延期となりました。）

平成23年7月13日（水） 19：30～

グランドホテル湘南 3階「藤」

講師：高須 博先生（北里大学医学部皮膚科学講師）

演題：「皮膚悪性腫瘍について」

平成23年11月16日（水） 19：30～

グランドホテル湘南 3階「藤」

講師：相原道子先生（横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学教授）

演題：「皮膚アレルギー疾患のトピックス」

(文責：小林誠一郎)



地域医会だより

川崎市皮膚科医会

第9回川崎市皮膚科医会定時総会・第14回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

平成23年10月5日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて第9回川崎市皮膚科医会定時総会・第14回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は望月明子会長の挨拶の後、石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第1号議案平成22年度会務報告に関する件以降第5号議案役員人事に関する件まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は清佳浩先生（帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授）の座長で飯島正文先生（昭和大学医学部皮膚科教授／日本皮膚科学会理事長）に「重症薬疹（SJS/TEN/DIHS）の診断と治療-重症薬疹の早期診断は可能か-」という演題でご講演いただきました。

重症薬疹の早期診断の困難さから、重症への経過、法令関係までお話しいただき、多数御参加いただいた他科の先生方にもとても役立つ講演会でした。

その後の情報交換会では、飯島先生が昔川崎にもいらした関係で、昔話に花が咲いた楽しいひと時となりました。

（文責：井上奈津彦）



地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

第43回三浦半島皮膚科懇話会 第26回横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会

日時：平成24年2月4日（土）
場所：メルキュールホテル横須賀 4階「ヴェルサイユ」
共催：三浦半島皮膚科懇話会
横須賀市医師会皮膚科部会
横須賀市医師会
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

製品紹介：アレジオン錠 最近の話題 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

特別講演：『痒みの機序と治療戦略-知れば役立つ最新のエビデンス-』

演者：聖路加国際病院皮膚科部長 衛藤 光先生

座長：金丸皮膚科院長 金丸哲山先生



1. 痒みの分類と発症機序

痒みの分類には、1. 末梢性の痒み、2. 中枢性の痒み、3. 難治性のかゆみがあり、6週間以上持続するものを慢性の痒みという。末梢ではヒスタミンなどの伝達物質が放出され1次ニューロンであるC線維が刺激される。脊髄後角で刺激は2次ニューロンに伝達されるが、ここではGRPR、neurokinin-1 受容体が痒み信号の伝達を担い κ -受容体作動薬やneurokinin-1 antagonistsが制御に関与する。痒み刺激は脊椎視床路を介して脳に伝わる。中枢性の痒みには μ -受容体作動薬 β -エンドルフィンなどのオピオイド系が関与する。

2. インターロイキン31 (IL-31) とヒスタミン H4 受容体を巡る最近の話題

IL-31はT細胞とアトピー性皮膚炎（以下AD）の炎症と痒痒を結びつける因子として注目されている。新しい痒痒抑制剤としてIL-31拮抗薬が開発途上であり、Targeted pruritus therapy として期待されている。ヒスタミン H4 受容体はCD4+Th2 cellsに強く発現し、IL-31を誘導する。H4受容体拮抗剤はまだ開発されていないが、最近塩酸エピナスチンがAD患者の血中IL-31を低下させることが報告され、新たな作用機序として注目されている。

3. 表皮内神経進展と痒痒

皮脂欠乏性皮膚炎やADでは神経線維が表皮内に伸長しており、神経末端が直接刺激され痒痒を生じる。これはNGFで伸長、Semaphorin 3Aで退縮する。興奮は末梢方向にも伝達されサブスタンスPが遊離され、ケラチノサイト由来のIL-1やTNF α 、肥満細胞由来のヒスタミンやトリプターゼを介して神経原性炎症が惹起される。

4. 痒みの機序からみた痒痒性皮膚疾患の治療戦略

治療の3本柱は、スキンケア、局所外用治療（ステロイドなど）、全身療法（抗ヒスタミン薬、免疫用製剤、光線療法）である。高齢者の皮膚痒痒症では皮膚の乾燥が基盤にあり、抗ヒスタミン薬抵抗性の痒みを呈する。そのほか皮膚痒痒症の原因として、中枢性の機序が示唆されている。

5. アトピー性皮膚炎の治療戦略

ヒスタミン以外のケミカルメディエーター、肥満細胞由来のトリプターゼ、サブスタンスP等の神経ペプチド、IL-31などのサイトカイン、ヒスタミン H4 受容体、オピオイド受容体、表皮内神経線維の関与が知られている。またTh2サイトカインはフィラグリン、Tight junction 蛋白の claudin-1の産生を低下させバリアを障害するが、抗アレルギー薬はバリア機能を回復する。ピメクロリムス、ステロイドの外用もTh2サイトカインを抑制してバリア回復に作用する。タクロリムス軟膏、シクロスポリン内服、紫外線治療の有用性も報告されている。

6. 抗ヒスタミン薬についての話題

第2世代抗ヒスタミン薬の作用として、ランゲルハンス細胞のTARC産生の抑制、NGFの低下とセマフォリン3Aの増加による知覚神経伸長の抑制、肥満細胞や好酸球の細胞膜安定化作用、サイトカインやプロテイナーゼの遊離抑制作用、好酸球の運動抑制作用や脱顆粒の抑制作用、活性酸素、組織障害性蛋白（MBP、ECP）の遊離抑制作用が知られている。一方、抗ヒスタミン薬によるインペアード・パフォーマンスの概念が確立され、第2世代非鎮静性抗アレルギー薬が第一選択薬となってきた。小児用にも1歳から塩酸エピナスチンが使用可能になった。一方、OTC薬では未だにジフェンヒドラミンやクロルフェニラミンが主体のためインペアード・パフォーマンスに注意が必要である。

まとめ

1. 痒みには末梢性と中枢性があり、ヒスタミン以外にも多くの因子が関与する。
2. 痒みには皮膚のバリア障害と表皮内神経伸展と炎症が関与する。
3. 治療の第1歩は正しいスキンケアによるバリア機能の確保である。
4. 炎症がある場合、その疾患の原因や病態に応じた治療を行う。
5. 内服は第2世代非鎮静性抗ヒスタミン薬が推奨される。
6. 難治性ADでは紫外線照射、シクロスポリンが有用である。
7. 中枢性の痒みには κ -受容体作動薬（ナルフラフィン）が有効である。

（文責：金丸哲山）



地域医会だより

小田原市皮膚科医会

平成23年度は、学術講演会を下記のとおり開催いたしました。

●小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会

日時：平成23年10月20日（木）18：50～

会場：報徳会館

演題：「アトピー性皮膚炎治療における抗ヒスタミン薬の使い方」

演者：東京女子医科大学教授 川島 眞先生

座長：日下部皮膚科医院院長 日下部芳志先生

共催：田辺三菱製薬株式会社

参加人数40名で他科の先生も多く盛会でした。

六六会（ゴルフ）等では会員はよく顔を合わせるのですが、学術が1回だけだったのはちょっと反省…。

（文責：大林寛人）



地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

症例検討会

日時：平成23年6月14日（火）

場所：茅ヶ崎市立病院 皮膚科外来

講師：なつ皮ふ科 掛水夏恵先生

講演会

日時：平成23年11月1日（火）

場所：茅ヶ崎市勤労市民会館 3階 B研修室

演題：「救急外来でみる皮膚疾患」 ～アレルギー・アナフィラキシーを中心に～

講師：茅ヶ崎市立病院皮膚科部長 池澤優子先生

（文責：小野秀貴）



地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

第56回例会 テーマ「臨床に役立つ電子顕微鏡」

出席者：29名

日時：2011年6月1日（水）

場所：グランドホテル神奈中平塚

司会：木花いづみ（平塚市民病院）

1. 商品説明（18：50～19：00） 帯状疱疹治療薬「ファミビル錠250mg」について

2. 総会（19：00～19：10）

3. 特別講演（19：10～20：20）

講師：石河 晃先生（東邦大学医療センター大森病院皮膚科学第一講座教授）

〔要旨〕

1931年に電子顕微鏡が発明されて以来、生物は細胞、細胞内小器官、さらには分子のレベルで語られるようになった。電顕病理学は免疫組織化学染色の発達により、その必要性こそ以前より低くなったが、依然として重要な所見を我々に提示してくれる。本講演では電子顕微鏡の基本知識、検体提出にあたっての注意、皮膚科診療における有用性、皮膚科研究における有用性につき概説し、可能な限り多くの電顕写真を供覧する。

4. 症例報告 (20:20~20:30)

「電子顕微鏡検査が診断に有用であった当院経験例」

木花いづみ先生、森 布衣子先生 (平塚市民病院皮膚科)

5. 情報交換会 (20:30~21:30)

共催：平塚市医師会皮膚科部会、マルホ株式会社

第57回例会 テーマ「皮膚科における遺伝相談」

出席者：32名

日時：2011年9月28日 (水)

場所：グランドホテル神奈中平塚

司会：福永有希 (平塚共済病院)

1. 一般演題 (19:00~19:20)

「慢性蕁麻疹に対するザイザル®の有用性の検討」

-神奈川県下22医療施設で行われた臨床試験による評価-

田宮紫穂先生 (東海大学医学部専門診療学系皮膚科学講師)

2. 特別講演 (19:20~20:30)

講師：石河 晃先生 (東邦大学医療センター大森病院皮膚科学第一講座教授)

〔要旨〕

近年、遺伝性疾患の責任遺伝子が明らかにされ、個々の症例においても遺伝子検査により確定診断が下されるようになりつつある。しかし、遺伝情報は究極の個人情報であり、また、遺伝子を正常化させる根本的な治療は確立されていないため、遺伝子検査にはカウンセリングを含めた慎重な対応が必要である。今回は遺伝性皮膚疾患の遺伝カウンセリングについて表皮水疱症を例として具体的な行動につき紹介する。

3. 情報交換会 (20:30~21:30)

共催：平塚市医師会皮膚科部会、グラクソ・スミスクライン株式会社

第58回例会 テーマ「口腔粘膜病変」～知っていれば便利、患者さんに即答できる～

出席者：51名

日時：2012年2月1日 (水)

場所：グランドホテル神奈中平塚

司会：小島雅彦 (こじま皮膚科クリニック)

1. 一般演題 (19:00~19:20)

「IgG4関連疾患」～近年の動向と皮膚症状を中心に～

伊勢美咲先生 (平塚市民病院皮膚科)

〔要旨〕

IgG4関連疾患は近年注目を集めている新しい疾患概念だが、まだ広く認識されるには至っていない。今回我々は皮膚に症状を来したIgG4関連疾患の一症例を経験したため報告するとともに、本疾患の背景を振り返り、2011年新たに提唱された診断基準を紹介する。全身の諸臓器に発生し得るため、今後は診療科に関わらずこの疾患概念を頭にとどめ、本疾患が疑われた場合には、他科との連携の上、診療にあたる必要があると考える。

2. 特別講演 (19:20~20:20)

講師：日野治子先生 (関東中央病院皮膚科部長)

〔要旨〕

皮膚科医は、体の表面を覆う皮膚に現れる変化を見て診断するのは、ごく日常的に行っているが、口腔内所見もさまざまな情報を私たちに与えてくれる。扁平苔癬などの炎症、カンジダによる真菌感染、脂肪腫・基底細胞癌・有棘細胞癌など良性・悪性腫瘍、これらは口唇・口腔内に限局して生じる病変であるが、2011年流行した手足口病などのようなウイルス感染症、Stevens-Johnson症候群のような薬疹など全身疾患の一症状としての病変も少なくない。診療中に“これは何ですか？”と問われて、返事に詰まるより、即答したいものである。よくみる変化、まれな変化を取り上げて供覧する。

3. 症例検討 (20:20~20:30)

「梅毒の2例」～粘膜病変を中心に～

安田文世先生 (平塚市民病院皮膚科)

4. 情報交換会 (20:30~21:30)

共催：平塚市医師会皮膚科部会、サノフィ・アベンティス株式会社

(文責：福永有希)



地域医会だより

厚木市皮膚科医会

●講演会

23年度前期

第30回厚木市皮膚科医会 平成23年5月19日(木)

於：レンブラントホテル厚木

演題「小児科から見るアトピー性皮膚炎」

東海大学医学部専門診療学系小児科学主任教授 望月博之先生

23年度後期

第31回厚木市皮膚科医会 平成23年12月4日(日)

第137回神奈川県皮膚科医会例会合同

於：関内新井ホール

テーマ 皮膚科医の得手？不得手？

第1演題「水いぼ治療、紫外線対策について—学校保健の立場から—」

大川 司 (前橋皮膚科医院、日臨皮学校保健委員会委員長)

第2演題「ファイナルアンサー 使えるジェネリック外用医薬品はこれだ」

大谷道輝 (東京通信病院薬剤部副部長)

●医療フェスティバル参加

ミニレクチャー

「ほくろのガン？」

ダーモスコープを説明し、参加者に実演

●厚木愛甲地区専門校医事業

会合参加 4回 小幡秀一

FAX相談 返答 2件

(文責：小幡秀一)



地域医会だより

丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

(文責：山本 修)



地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

相模原市は神奈川県西北部に位置した政令指定都市です。人口は70万人台です。ただ全国の政令指定都市では市立病院の無い唯一の市でもあります。その中で勤務医を含め会員数500人位の相模原市医師会です。その下に学術医会として当会があります。従って市医師会の会員で無いと当会の会員になれません。最近の流行か医師会に入会なされぬ開業医も珍しく無く、従って皮膚科医でも当会に入っておられぬ方も数人居ます。

●平成23年度講演会の記録

平成23年 5月18日 於：小田急センチュリーホテル相模大野

講師：北里大学東病院治験管理センター長 熊谷雄治先生

題名：抗ヒスタミン薬の有害反応の回避

平成23年 9月14日 於：小田急センチュリーホテル相模大野

講師：新宿南口皮膚科院長 乃木田俊辰先生

題名：ニキビの最新治療

平成23年11月 9日 於：小田急センチュリーホテル相模大野

講師：東邦大学医療センター大森病院准教授 関東裕美先生

題名：接触皮膚炎～パッチテストによる原因究明

平成24年 2月15日 於：小田急センチュリーホテル相模大野

講師：北里大学皮膚科学講師 高須 博先生

題名：皮膚の悪性腫瘍-診断から治療の実際

上記以外には北里大学皮膚科学教室の御好意にて、北里臨床皮膚フォーラム、相模原皮膚科学セミナー、神奈川臨床皮膚病理組織検討会などに参加させて頂きました。

また平成23年10月には1泊2日の会員親睦を兼ねた研修旅行を箱根にて実施しました。

(文責：大木 和)

